

胆汁は、古くなった赤血球からできるビリルビン、コレステロール、胆汁酸などから肝臓で作られる液体で、胆管を経由して胆のうにためられます。食後などに、胆のうの収縮によって腸に押し出され、老廃物を排出するとともに食物の脂肪を消化しやすくしていきます。胆石とは、胆汁の排せつ路である胆管や胆のうの中で、胆汁成分が固まってできた固形物のことです。胆のうにできることが最も多いので、一般に胆石症といえば胆のう結石症を思い浮かべがちですが、胆管に結石ができることもあります。胆石にはコレステロールを主成分としたコレステロール胆石、細菌感染が原因でできるビリルビンカルシウム石、肝硬変などの方

## 胆石症について

消化器内科



に多い黒色石などの種類があります。胆石の症状には、腹痛、悪心などがあり、特に脂肪に富んだ食事をした後にしばしば起こります。胆石があってもおよそ半数の方は症状がなく、人間ドックなどで偶然見つかることが多いです。症状のない比較的小さなコレステロール胆石では、飲み薬で溶かすことができる場合がありますが、大きな石や、石灰化のある石、胆のうの働きが悪い場合などは薬で溶かすことはできません。症状がない胆のう

結石は基本的に手術の必要はありませんが、小さな石が多数ある方や、胆のう管(胆のうと胆管をつなぐ管)や総胆管に石がある方、若年の方などでは症状が出る危険が高いため手術の相談をされた方がよいでしょう。発熱や黄疸などの症状を伴う場合には急性胆のう炎や胆管炎を併発していることが疑われ、緊急に治療をすることが必要です。胆のう結石の手術は、おなかに小さな穴を開けて行う腹腔鏡下手術で胆のうを取り出すことが一般的ですが、炎症が強い場合には開腹手術が必要なものもあります。



岡本 博司 さん  
岡吉病院 消化器内科部長